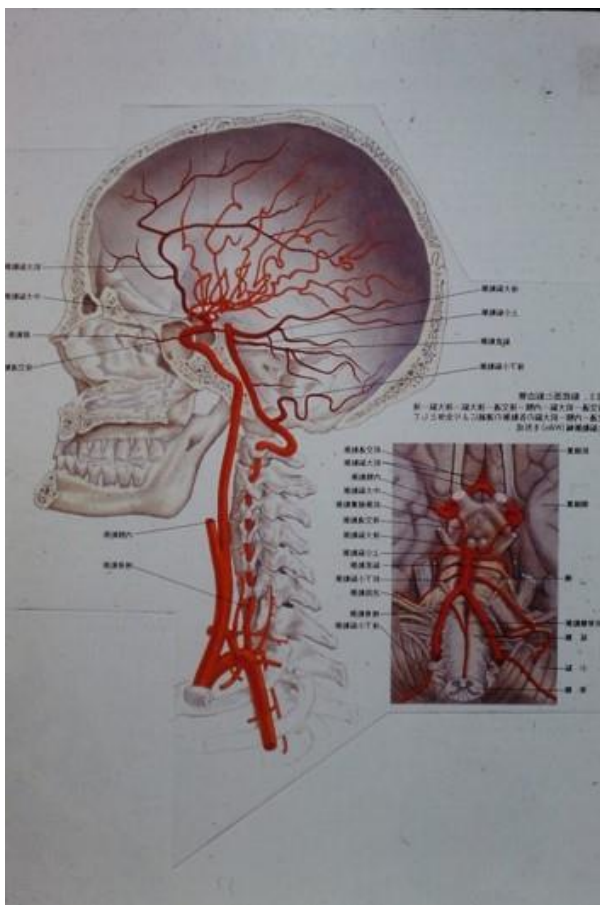


「脳血管障害(脳卒中)について」

脳が正常に機能するため膨大なエネルギーを血流から必要とする。血管障害が脳の働きを困難にするため人の健康が損なわれる。脳血管障害がガン、心疾患、肺炎の次、第4位の死亡原因である。2015年の統計によるとこの1年間だけ117万人が脳血管障害に罹病していたことが分かった。未だに脳血管疾患が多く発生し、国民の関心を集めていると考えられる。



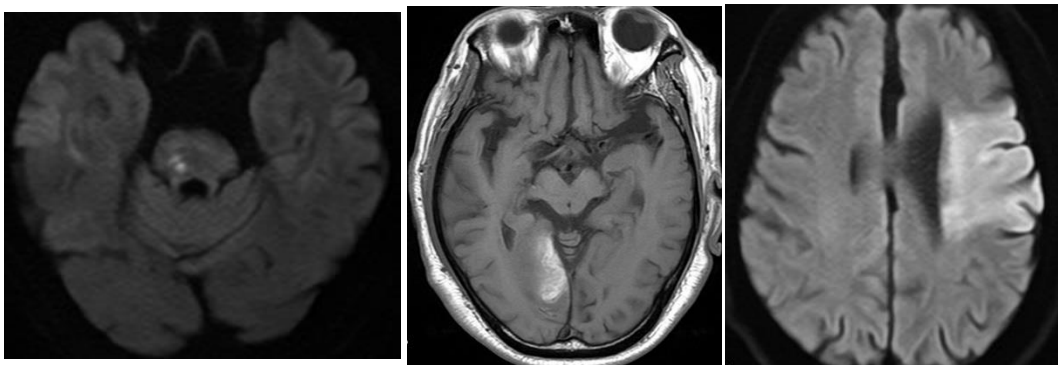
脳の血管網一長さ計 160000Km.

脳血管障害を診断するには検査方法として CT スキャンや MRI 及び血管撮影等がある。脳血管障害には一過性脳虚血発作や脳梗塞や脳内出血及びくも膜下出血が含まれている。これらのうち脳梗塞が 71.6%で最も多く発症する。脳血管疾患の症状が急激で起こり、片側の上下肢の脱力や感覚障害や言語障害、意識障害がその主な症状である。これらの症状が一過性に 5 分から 48 時間に起こった後、症状の回復が認められる場合を一過性脳虚血性発作と呼ぶが、症状が持続しいずれ固定した病状を脳梗塞と呼ぶ。



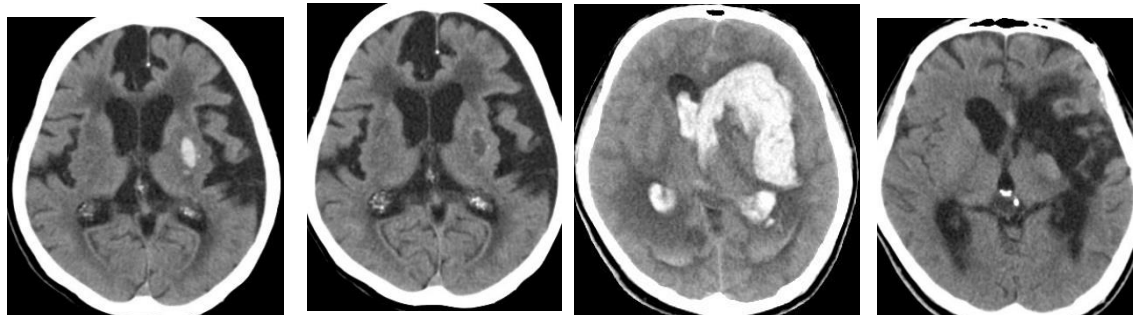
脳卒中の症状

くも膜下出血を除いて脳梗塞や脳内出血の原因あるいは危険因子とは高血圧や糖尿病、脂質異常や心疾患や血液凝固異常や喫煙、多量の酒等々があるが最初の 3 因子が生活習慣の三大疾患で最も多く関与している。危険因子の持続により血管内腔が狭まり脳の血液循環が減少したり、血管内壁に血栓ができ血管を閉塞したりすることによって脳梗塞になる。抹消の細い血管が詰まると小さな脳梗塞巣の原因となり、その進行を予防するために薬物療法を用いるが主幹動脈が詰まると広範な梗塞巣を作る可能性があり早期に血栓を溶かす溶解剤を注入したり、またはバルン付きカテーテルやステントという血管内治療（手術）を用いて血管形成したりする方法で治療される。血管内手術は当院連携病院である大阪大学病院脳神経外科でお願いしています。



脳梗塞の MRI 画像：白くなっている脳の部分が軽症から重症までの梗塞を示している。梗塞巣の部位と大きさにより脳神経症状の重症度が決まる。

脳内出血は 17.6%脳梗塞の次多く経験される。その原因の多くは高血圧ですが血管奇形も出血の原因になりうる。出血の量や出血部位または患者の全身状態などにより治療は保存的か開頭手術が行われる。



A

A'

B

B'

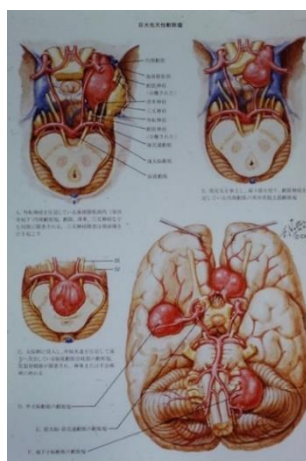


C

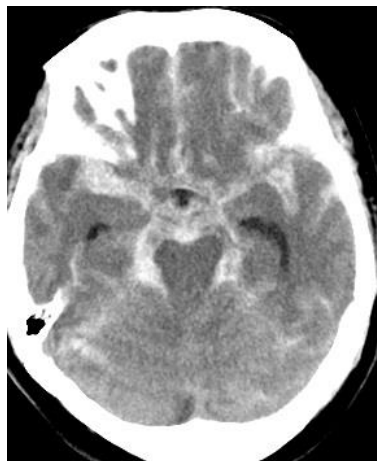
脳内出血の CT 画像（白くなっている部分）：A）少量の出血で一時的な右の片麻痺で発症したが2週間後血腫が吸収（A'）され麻痺も軽快した。B）大量の血腫で患者さんの意識障害が見られたため緊急手術が行われ（B'）患者さんが救命されたが右片麻痺と失語症が残存した。C）巨大な脳内出血を起こし、救命できる間もなかった。

くも膜下出血が急激な頭痛で発症し、そのほとんどは脳動脈瘤の破裂によって起こる重病である。これらの患者の3割しか社会復帰できない。

脳ドックで破裂前の動脈瘤を発見することがあり、場合により治療する。脳動脈瘤の主な治療方法は開頭による動脈瘤のクリッピング術か開頭せずにカテーテルを用いてのコイル塞栓術がおこなわれる。



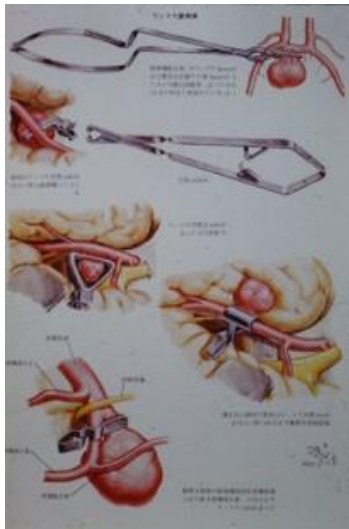
A



B



C



D



E

- A：脳動脈瘤の発生部位を示している。
- B：CT 画像：くも膜下出血の一例、白く撮っているものは出血です。
- C：血管撮影：動脈瘤（) が撮っている。
- D：動脈瘤のクリッピング方法。
- E：今回くも膜下出血で発症した動脈瘤症例がコイル塞栓術で治療された。